



## インストールタスク

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) のインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) 導入パラメータとシナリオ \(2 ページ\)](#)
- [vCenter vSphere Client を使用した Crosswork Data Gateway のインストール \(16 ページ\)](#)
- [OVF ツールによる Crosswork Data Gateway のインストール \(22 ページ\)](#)
- [Cisco CSP に Crosswork Data Gateway をインストールする \(25 ページ\)](#)
- [登録パッケージの生成 \(33 ページ\)](#)
- [登録パッケージのエクスポート \(34 ページ\)](#)

## Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) のインストール

Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) は、最初に Base VM と呼ばれる VM として展開されます (Crosswork Cloud に登録するのに必要なソフトウェアしか含まれていません)。Crosswork Cloud は、分散 Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) VM からの収集をオーケストレーションします。

ネットワークのサイズに基づいて、複数の Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を展開できます。

Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) 展開および設定ワークフロー

Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を展開および設定して Crosswork Cloud で使用するには、次の手順を実行します。

1. インストールの計画を立てます。展開パラメータと可能な展開シナリオについては、このトピックを参照してください。 [Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) 導入パラメータとシナリオ \(2 ページ\)](#)

- 使用するプラットフォームに Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) をインストールします。

VMware	<a href="#">vCenter vSphere Client を使用した Crosswork Data Gateway のインストール (16 ページ)</a>
	<a href="#">OVF ツールによる Crosswork Data Gateway のインストール (22 ページ)</a>
Cisco CSP	<a href="#">Cisco CSP に Crosswork Data Gateway をインストールする (25 ページ)</a>

- Crosswork Cloud に Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を登録します。



**注** Crosswork Cloud アプリケーションに Cisco Crosswork Data Gateway を登録する手順については、『Cisco Crosswork Cloud User Guide』の「Add Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) Information」の章を参照してください。

- [登録パッケージの生成 \(33 ページ\)](#)
- [登録パッケージのエクスポート \(34 ページ\)](#)

クラウド導入では、Cisco Crosswork Data Gateway は TLS 経由でインターネットに接続する必要があり、環境内に存在しているかどうかに応じてプロキシサーバが必要になる場合があります。ネットワークにプロキシサーバがある場合は、インストールプロセス中、またはインストール後に[インタラクティブ (Interactive) ]メニューから設定する必要があります。参照先：

- [制御プロキシの設定](#)
- [Crosswork Data Gateway の接続の確認](#)

## Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) 導入パラメータとシナリオ

Crosswork Data Gateway のインストールを開始する前に、導入パラメータと導入シナリオについて、この項全体をお読みください。

Crosswork Data Gateway では、すべてのインターフェイスで IPv4 または IPv6 のいずれかがサポートされます。Crosswork Cloud はデュアルスタック構成をサポートしていません。そのため、環境のアドレスはすべて IPv4 または IPv6 のいずれかとしてプランニングしてください。

インストール時に、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) は2つのデフォルトユーザアカウントを作成します。

- ユーザ名が `dg-admin` で、インストール時に設定されたパスワードの Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) の管理者。管理者は、この ID を使用してログインし、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) のトラブルシューティングを行います。
- ユーザ名が `dg-oper` で、インストール時に設定されたパスワードの Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) のオペレータ。これは読み取り専用ユーザで、すべての「read」操作と一部の限定された「action」コマンドを実行する権限があります。
- これら2つの定義済みユーザ名は予約済みであり、変更できません。
- パスワードの変更は、両方のアカウントに対してコンソールから許可されます。[パスワードの変更](#)を参照してください。
- 管理者とオペレータが実行できる操作については、[サポートされるユーザロール](#)を参照してください。
- パスワードを紛失したか忘れた場合は、新しいVMを作成し、現在のVMを破棄して、新しいVMを Crosswork Cloud に再登録する必要があります。

次の表では、以下の点に注意してください。

\* は必須パラメータであることを示します。その他はオプションです。必要な展開シナリオの種類に基づいて選択できます。展開シナリオについては、必要に応じて「その他の情報」列で説明します。

\*\* インストール中に入力できるパラメータ、または追加の手順を使用して対処できるパラメータを示します。

表 1: Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) 導入パラメータとシナリオ

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
ホスト情報			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
ホスト名 (Hostname) *	Hostname	<p>完全修飾ドメイン名 (FQDN) として指定された Cisco Crosswork Data Gateway VM の名前。</p> <p>(注) 大規模なシステムでは、複数の Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) VM が存在する可能性があります。したがって、ホスト名は一意であり、特定の VM を簡単に識別できるように作成する必要があります。</p>	
説明 (Description) *	Description	Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) の詳細です。	

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
ラベル (Label)	Label	複数の Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を分類およびグループ化するために Cisco Crosswork Cloud で使用されるラベル。	
アクティブな vNIC (Active vNICs)	ActiveVnics	トラフィックの送信に使用する vNIC の数。	ネットワーク要件に応じて、1つ、2つ、または3つのインターフェイスの使用を選択できます。  トラフィックのルーティング方法については、 <a href="#">VM要件</a> の表「インターフェイス」を参照してください。
AllowRFC8190	AllowRFC8190	使用可能な RFC 8190 の範囲内にあるインターフェイスアドレスを許可します。[はい (yes) ]、[いいえ (no) ]、または[問う (ask) ]を選択します。デフォルト値は yes です。	

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
秘密キー URI (Private Key URI)	DGCertKey	セッションキー署名用の秘密キーファイルへの SCP URI。これは SCP (user@host:path/to/file) を使用して取得できません。	証明書チェーンは、Cisco Crosswork Data Gateway VM のプリセットまたは生成された証明書を上書きし、SCP URI (user:host:/path/to/file) として指定されます。
証明書ファイル URI (Certificate File URI)	DGCertChain	この VM の PEM 形式の署名証明書チェーンへの SCP URI。これは SCP (user@host:path/to/file) を使用して取得できません。	Crosswork Cloud は、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) とのハンドシェイクに自己署名証明書を使用します。これらの証明書はインストール時に生成されます。
証明書ファイルとキーパスフレーズ (Certificate File and Key Passphrase)	DGCertChainPwd	Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) の PEM 形式の証明書ファイルと秘密キーを取得する SCP ユーザパスフレーズ。	ただし、サードパーティまたは独自の証明書ファイルを使用する場合は、次の3つのパラメータを入力する必要があります。  (注) URI ファイルを持つホストは、ネットワーク上で (SCP を介して vNIC0 インターフェイスから) 到達可能でなければならず、ファイルはインストール時に存在する必要があります。

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
データディスクサイズ (Data Disk Size)	DGAppdataDisk	独立したデータディスクのサイズ (GB 単位)。最小値は 20 GB で、これがデフォルト値です。最大 70 GB の値を入力してください。	
<b>パスフレーズ</b>			
dg-admin パスフレーズ (dg-admin Passphrase) *	dg-adminPassword	dg-admin ユーザ用に選択したパスワード。 パスワードは 8 - 64 文字である必要があります。	
dg-oper パスフレーズ (dg-oper Passphrase) *	dg-operPassword	dg-oper ユーザ用に選択したパスワード。 パスワードは 8 - 64 文字である必要があります。	
<b>インターフェイス</b>			
<p>(注) IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかを選択する必要があります。[vNICx IPv4 メソッド (vNICx IPv4 Method)] フィールドと [vNICx IPv6 メソッド (vNICx IPv6 Method)] フィールドの両方で [なし (None)] を選択すると、展開が機能しなくなります。</p>			
vNICx IPv4 アドレス (使用するインターフェイスの数に応じて VNIC0、VNIC1、および VNIC2)			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
vNICx IPv4 方式 (vNICx IPv4 Method) * たとえば、vNIC0 のパラメータ名は vNIC0 IPv4 方式 (vNIC0 IPv4 Method) です。	VnicxIPv4Method たとえば、vNIC0 のパラメータ名は Vnic0IPv4Method です。	vNICx インターフェイスがその IPv4 アドレスを取得する方法。	[方式 (Method)] のデフォルト値は [なし (None)] です。  IPv4 アドレスを使用する場合は、[方式 (Method)] を [スタティック (Static)] に指定し、[アドレス (Address)]、[ネットマスク (Netmask)]、[ゲートウェイをスキップ (Skip Gateway)]、および [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに情報を入力します。
vNICx IPv4 アドレス (vNICx IPv4 Address)	VnicxIPv4Address	vNICx インターフェイスの IPv4 アドレス。	
vNICx IPv4 ネットマスク (vNICx IPv4 Netmask)	VnicxIPv4Netmask	ドット区切りの4つの数字列形式による vNICx インターフェイスの IPv4 ネットマスク。	
vNICx IPv4 スキップゲートウェイ (vNICx IPv4 Skip Gateway)	VnicxIPv4SkipGateway	オプションは [はい (yes)] または [いいえ (no)] です。  [はい (yes)] を選択すると、ゲートウェイの設定がスキップされます。	
vNICx IPv4 ゲートウェイ (vNICx IPv4 Gateway)	VnicxIPv4Gateway	vNICx ゲートウェイの IPv4 アドレス。	
vNICx IPv6 アドレス (使用するインターフェイスの数に応じて VNIC0、VNIC1、および VNIC2)			



VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
vNICx IPv6 方式 (vNICx IPv6 Method) * たとえば、vNIC0 のパラメータは vNIC0 IPv6 方式 (vNIC0 IPv6 Method) です。	VnicxIPv6Method たとえば、vNIC0 のパラメータは Vnic0IPv6Method です。	vNICx インターフェイスがその IPv6 アドレスを取得する方法。	[方式 (Method)] のデフォルト値は [なし (None)] です。  IPv6 アドレスを使用する場合は、[方式 (Method)] を [スタティック (Static)] に指定し、[アドレス (Address)]、[ネットマスク (Netmask)]、[ゲートウェイをスキップ (Skip Gateway)]、および [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに情報を入力します。
vNICx IPv6 アドレス (vNICx IPv6 Address)	VnicxIPv6Address	vNICx インターフェイスの IPv6 アドレス。	
vNICx IPv6 ネットマスク (vNICx IPv6 Netmask)	VnicxIPv6Netmask	vNICx インターフェイスの IPv6 プレフィックス。	
vNICx IPv6 スキップゲートウェイ (vNICx IPv6 Skip Gateway)	VnicxIPv6SkipGateway	オプションは [はい (yes)] または [いいえ (no)] です。  [はい (yes)] を選択すると、ゲートウェイの設定がスキップされます。	
vNICx IPv6 ゲートウェイ (vNICx IPv6 Gateway)	VnicxIPv6Gateway	vNICx ゲートウェイの IPv6 アドレス。	
<b>DNS サーバ</b>			
DNS アドレス (DNS Address) *	DNS	管理インターフェイスからアクセス可能な DNS サーバの IPv4/IPv6 アドレスのスペース区切りリスト。	
DNS 検索ドメイン (DNS Search Domain) *	ドメイン (Domain)	DNS 検索ドメイン	
DNS セキュリティ拡張機能 (DNS Security Extensions)	DNSSEC	DNS セキュリティ拡張機能を使用するかどうか。	

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
DNS over TLS	DNSTLS	DNS over TLS を使用するかどうか。	
マルチキャスト DNS (Multicast DNS)	mDNS	マルチキャスト DNS を使用するかどうか。	
リンクローカルマルチ キャスト名前解決 (Link-Local Multicast Name Resolution)	LLMNR	Link-Local Multicast Name Resolution を使用 するかどうか。	
NTPv4サーバ			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
NTPv4 サーバ (NTPv4 Servers) *	NTP	管理インターフェイスからアクセス可能な NTPv4 サーバの IPv4/IPv6 アドレスまたはホスト名のスペース区切りリスト。	ここには、pool.ntp.org などの値を入力する必要があります。NTP サーバは、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway)、Crosswork Cloud、およびデバイス間の時刻同期に不可欠です。機能しないアドレスまたはダミーアドレスを使用すると、Crosswork Cloud と Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) が相互に通信を試みる際に問題が発生する可能性があります。NTP サーバを使用していない場合は、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) と Crosswork Cloud 間のタイムギャップが 24 時間以下であることを確認します。そうでない場合、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) は接続に失敗します。
NTPv4 認証の使用 (Use NTPv4 Authentication)	NTPAuth	NTPv4 認証を使用するかどうか。	
NTPv4 キー (NTPv4 Keys)	NTPKey	サーバリストにマッピングするスペース区切りのキー ID。	

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
NTPv4 キーファイル URI (NTPv4 Key File URI)	NTPKeyFile	chrony キーファイルへの SCP URI。	
NTPv4 キーファイルパスフレーズ (NTPv4 Key File Passphrase)	NTPKeyFilePwd	chrony キーファイルへの SCP URI のパスワード。	
リモート Syslog サーバ			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
リモート Syslog サーバを使用しますか? (Use Remote Syslog Server?)	UseRemoteSyslog	リモートホストに syslog メッセージを送信するか否か。	<p>外部 syslog サーバを設定すると、サービスイベントが外部 syslog サーバに送信されます。それ以外の場合は、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) VM にのみ記録されます。</p> <p>外部 syslog サーバを使用する場合は、これらの7つの設定を行う必要があります。</p> <p>(注) URI ファイルを含むホストは、ネットワーク上で (SCP を介して vNIC0 インターフェイスから) 到達可能でなければならず、ファイルはインストール時に存在する必要があります。</p>
Syslog サーバのアドレス (Syslog Server Address)	SyslogAddress	<p>管理インターフェイスからアクセス可能な syslog サーバの IPv4 または IPv6 アドレス。</p> <p>(注) IPv6 アドレスを使用している場合は、角カッコ ([1::1]) で囲む必要があります。</p>	
Syslog サーバポート (Syslog Server Port)	SyslogPort	Syslog サーバのポート番号。	
Syslog サーバプロトコル (Syslog Server Protocol)	SyslogProtocol	syslog の送信時に UDP、TCP、または RELP を使用します。	
TLS 経由の Syslog を使用するかどうか (Use Syslog over TLS?)	SyslogTLS	TLS を使用して syslog のトラフィックを暗号化します。	
Syslog TLS ピア名 (Syslog TLS Peer Name)	SyslogPeerName	サーバ証明書の SubjectAltName またはサブジェクトの共通名に入力されたとおりの syslog サーバのホスト名。	
Syslog ルート証明書ファイル URI (Syslog Root Certificate File URI)	SyslogCertChain	SCP を使用して取得した syslog サーバの PEM 形式のルート証明書。	
Syslog 証明書ファイルのパスフレーズ (Syslog Certificate File Passphrase)	SyslogCertChainPwd	Syslog 証明書チェーンを取得する SCP ユーザのパスワード。	

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
<b>リモート監査サーバ</b>			
リモート監査サーバを使用しますか (Use Remote Auditd Server?)	UseRemoteAuditd	リモートホストに Auditd メッセージを送信するか。	必要に応じて、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) VM に変更が加えられると外部のリモート監査サーバが変更監査通知を送信するように設定できます。 外部の Auditd サーバを使用するには、これらの3つの設定を指定します。
Auditd サーバアドレス (Auditd Server Address)	AuditdAddress	オプションの監査サーバのホスト名、IPv4、または IPv6 アドレス。	
監査サーバポート (Auditd Server Port)	AuditdPort	オプションの監査サーバのポート番号。	
<b>コントローラの設定</b>			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
プロキシサーバの URL (Proxy Server URL)	ProxyURL	管理ネットワークプロキシサーバの URL。	クラウド導入では、Cisco Crosswork Data Gateway は TLS 経由でインターネットに接続する必要があり、プロキシサーバが環境に存在しない場合は、プロキシサーバが必要になる場合があります。 プロキシサーバを使用する場合は、これらのパラメータを指定する必要があります。
プロキシサーババイパスリスト (Proxy Server Bypass List)	ProxyBypass	プロキシサーバに送信されないサブネットとドメインのスペース区切りリスト。	
認証プロキシのユーザ名 (Authenticated Proxy Username)	ProxyUsername	認証済みプロキシサーバのユーザ名。	
認証プロキシのパスワード (Authenticated Proxy Passphrase)	ProxyPassphrase	認証済みプロキシサーバのパスワード。	
HTTPS プロキシ SSL/TLS 証明書ファイル URI (HTTPS Proxy SSL/TLS Certificate File URI)	ProxyCertChain	SCP を使用して取得した HTTPS プロキシの PEM 形式の SSL/TLS 証明書ファイル。	
HTTPS プロキシ SSL/TLS 証明書ファイルのパスワード (HTTPS Proxy SSL/TLS Certificate File Passphrase)	ProxyCertChainPwd	プロキシ証明書チェーンを取得する SCP ユーザのパスワード。	
自動登録パッケージの転送 (Auto Enrollment Package Transfer)			

VMware パラメータ	CSP パラメータ	説明	その他の情報
登録の宛先ホストとパス (Enrollment Destination Host and Path) **	EnrollmentURI	SCP を使用して登録パッケージを転送する SCP ホストおよびパス (user@host:/path/to/file)。	Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を登録するには、登録パッケージが必要です。インストール中にこれらのパラメータを指定すると、登録パッケージは、Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) の初回起動時にそのローカルホストに自動的に転送されます。  インストール時にこれらのパラメータを指定しない場合は、 <a href="#">登録パッケージのエクスポート (34 ページ)</a> の手順に従って登録パッケージを手動でエクスポートする必要があります。
登録パスフレーズ (Enrollment Passphrase) **	EnrollmentPassphrase	登録パッケージを転送するための SCP ユーザパスフレーズ。	

次の作業 : Cisco Crosswork Data Gateway VM のインストールに進みます。

## vCenter vSphere Client を使用した Crosswork Data Gateway のインストール

vCenter vSphere Client を使用して Crosswork Data Gateway をインストールするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Crosswork Data Gateway 2.0.x のリリースノートを参照し、CCO (\*.ova) から推奨される Crosswork Data Gateway イメージファイルをダウンロードします。



**警告** デフォルトの VMware vCenter の展開タイムアウトは 15 分です。OVF テンプレート展開の完了にかかる時間が 15 分を超えると、vCenter がタイムアウトし、最初からやり直す必要があります。これを防ぐために、展開を開始する前にテンプレートを確認し、入力する内容を決めておくことをお勧めします。

**ステップ 2** vCenter Server クライアントに接続します。[アクション (Actions) ] > [OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF Template) ] を選択します。

**ステップ 3** VMware の [OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF Template) ] ウィザードが表示され、最初の手順 [1 テンプレートの選択 (1 Select template) ] が強調表示されます。

a) [参照 (Browse) ] をクリックし、OVA イメージファイルをダウンロードした場所に移動してファイルを選択します。

ファイル名がウィンドウに表示されます。

**ステップ 4** 次の図のように、[次へ (Next) ] をクリックして [2 名前と場所の選択 (2 name and location) ] に移動します。

a) 作成する Cisco Crosswork Data Gateway VM の名前を入力します。

b) [仮想マシンの場所を選択 (Select a location for the virtual machine) ] リストで、Cisco Crosswork Data Gateway VM が存在するデータセンターを選択します。

## Deploy OVF Template

✓ 1 Select an OVF template

2 Select a name and folder

3 Select a compute resource

4 Review details

5 Select storage

6 Ready to complete

Select a name and folder

Specify a unique name and target location

Virtual machine name:

Select a location for the virtual machine.

- ▼ rcdn5-spm-vc-01.cisco.com
  - > Cisco-CX-Lab
  - > rcdn5-spm-dc-01
  - > rcdn5-spm-dc-02
  - > RTP

CANCEL

BACK

NEXT

**ステップ 5** [次へ (Next) ] をクリックして、[3 リソースの選択 (3 Select a resource) ] に進みます。VM のホストを選択します。

**ステップ 6** [次へ (Next) ] をクリックします。VMware vCenter Server が OVA を検証します。検証にかかる時間はネットワーク速度によって決まります。検証が完了すると、ウィザードは [4 詳細の確認 (4 Review details) ] に移動します。OVA の情報を確認して [次へ (Next) ] をクリックします。

展開する OVF テンプレートを確認します。

(注) この情報は OVF から収集され、変更はできません。

**ステップ 7** [次へ (Next) ] をクリックして、[使用許諾契約に同意 (Accept License Agreement) ] に移動します。エンドユーザ ライセンス契約書を確認し、[承認 (Accept) ] をクリックします。

**ステップ 8** 次の図のように、[次へ (Next) ] をクリックして [6 設定の選択 (6 Select configuration) ] に移動します。[Crosswork Cloud] を選択します。

## Deploy OVF Template

Configuration	Description
<input checked="" type="radio"/> Crosswork Cloud	8 CPU; 32GB RAM; 1-3 NICs; 70GB Disk
<input type="radio"/> Crosswork On-Premise Standard	
<input type="radio"/> Crosswork On-Premise Extended	

3 Items

CANCEL BACK NEXT

**ステップ 9** 次の図のように、[次へ (Next) ] をクリックして [7 ストレージの選択 (7 Select storage) ] に移動します。

- a) [仮想ディスクフォーマットの選択 (Select virtual disk format) ] フィールドで次のように選択します。
- 実稼働環境の場合、[シックプロビジョニング Lazy Zeroed (Thick provision lazy zeroed) ] を選択します。

- 開発環境の場合、[シンプロビジョニング (Thin provisioning)] を選択します。
- b) [データストレージ (Datastores)] テーブルから、使用するデータストアを選択し、そのプロパティを確認して、使用可能なストレージが十分であることを確認します。

## Deploy OVF Template

- ✓ 1 Select an OVF template
- ✓ 2 Select a name and folder
- ✓ 3 Select a compute resource
- ✓ 4 Review details
- ✓ 5 License agreements
- ✓ 6 Configuration
- 7 Select storage
- 8 Select networks
- 9 Customize template
- 10 Ready to complete

**Select storage**  
Select the storage for the configuration and disk files

---

Encrypt this virtual machine (Requires Key Management Server)

Select virtual disk format: Thick Provision Lazy Zeroed ▾

VM Storage Policy: Datastore Default ▾

Name	Capacity	Provisioned	Free	Type
Local Datastore	2.45 TB	1.19 TB	1.46 TB	VM

Compatibility

✓ Compatibility checks succeeded.

CANCEL
BACK
NEXT

**ステップ 10** 次の図のように、[次へ (Next)] をクリックして [8 ネットワークの選択 (8 Select networks)] に移動します。ページ上部のドロップダウンテーブルで、vNIC0、vNIC1、および vNIC2 に使用する vNIC の数に基づいて、各送信元ネットワークに適切な宛先ネットワークを選択します。

vNIC0から順に、使用する宛先ネットワークを選択してください。未使用のvNICは、デフォルト値のままにしてください。

## Deploy OVF Template

✓ 1 Select an OVF template  
 ✓ 2 Select a name and folder  
 ✓ 3 Select a compute resource  
 ✓ 4 Review details  
 ✓ 5 License agreements  
 ✓ 6 Configuration  
 ✓ 7 Select storage  
**8 Select networks**  
 9 Customize template  
 10 Ready to complete

**Select networks**  
Select a destination network for each source network.

Source Network	Destination Network
vNIC2	Crosswork-Devices
vNIC1	Crosswork-Internal
vNIC0	VM Network

3 items

**IP Allocation Settings**

IP allocation: Static - Manual

IP protocol: IPv4

CANCEL BACK NEXT

**ステップ 11** [次へ (Next) ]をクリックして、[ホスト情報の設定 (Host Information Settings) ]が展開された [9 テンプレートのカスタマイズ (Customize template) ]に移動します。

(注) 大規模なシステムでは、複数の Cisco Crosswork Data Gateway VM を使用する可能性があります。したがって、Cisco Crosswork Data Gateway のホスト名は一意であり、特定の VM を簡単に識別できるように作成する必要があります。

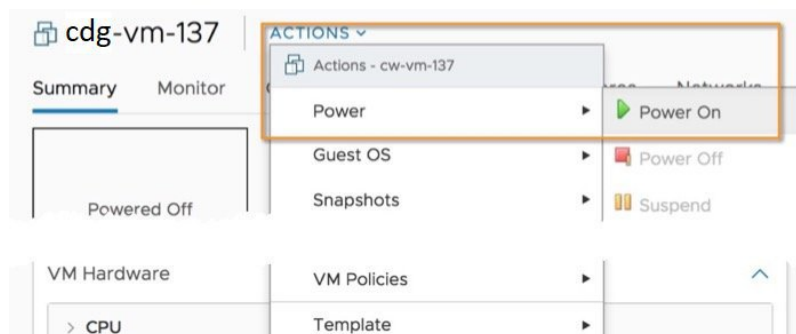
[Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) 導入パラメータとシナリオ \(2 ページ\)](#) の説明に従って、パラメータの情報を入力します。

**ステップ 12** [次へ (Next) ]をクリックして、[10 完了の準備 (10 Ready to complete) ]に移動します。設定を確認し、展開を開始する準備ができたなら [終了 (Finish) ]をクリックします。

**ステップ 13** 展開ステータスを確認します。

- vCenter vSphere クライアントを開きます。
- ホスト VM の [最近のタスク (Recent Tasks) ] タブに、[OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF template) ] ジョブと [OVFパッケージのインポート (Import OVF package) ] ジョブのステータスを表示します。

- ステップ 14** 展開ステータスが100%になったら、VMの電源を入れて展開プロセスを完了します。次の図に示すように、ホストのエントリを展開してVMをクリックし、[アクション (Actions)]>[電源 (Power)]>[電源オン (Power On)]の順に選択します。



VM が起動するまで少なくとも 5 分間待機し、vCenter または SSH 経由でログインします。

**警告** vCenter で VM のネットワーク設定を変更すると、意図しない重大な結果になる可能性があります。これには、スタティックルートと接続の損失などが含まれます。これらの設定を変更する場合は、自己責任で行ってください。IP アドレスを変更する場合は、現在の VM を破棄し、新しい VM を作成して、新しい VM を Crosswork Cloud に再登録します。

### 次のタスク

vCenter 経由で Crosswork Data Gateway VM にログインします。

1. vCenter で VM を右クリックし、[コンソールを開く (Open Console)] を選択します。
2. ユーザ名（割り当てられたロールに応じて dg-admin または dg-oper）と、対応するパスワード（インストールプロセスで作成したパスワード）を入力し、Enter を押します。

SSH を介した Cisco Crosswork Data Gateway VM へのアクセス：

SSH プロセスは、多数のログイン失敗後にクライアント IP をブロックすることにより、ブルートフォース攻撃から保護されます。不正なユーザ名またはパスワード、接続の切断、あるいはアルゴリズムの不一致などの失敗は、IP に対してカウントされます。20 分の時間枠内で最大 4 回失敗すると、クライアント IP は少なくとも 7 分間ブロックされます。失敗が累積し続けると、ブロックされる時間が長くなります。各クライアント IP は個別に追跡されます。

1. Cisco Crosswork Data Gateway の管理 IP にネットワークアクセスできるワークステーションから、次のコマンドを実行します。

```
ssh <username>@<ManagementNetworkIP>
```

ここで、ManagementNetworkIP は、IPv4 または IPv6 アドレス形式の管理ネットワーク IP アドレスです。

次の例を参考にしてください。

管理者ユーザとしてログインする場合：ssh dg-admin@<ManagementNetworkIP>

オペレータユーザとしてログインする場合： `ssh dg-oper@<ManagementNetworkIP>`

2. 対応するパスワード（インストールプロセスで作成したパスワード）を入力し、[Enter] キーを押します。

Cisco Crosswork Data Gateway VM にアクセスできない場合は、ネットワーク設定に問題があります。コンソールからネットワーク設定を確認します。正しくない場合は、Cisco Crosswork Data Gateway VM を削除し、正しいネットワーク設定で再インストールすることをお勧めします。

## OVF ツールによる Crosswork Data Gateway のインストール

要件に応じて、コマンドやスクリプトの必須またはオプションのパラメータを変更し、OVF ツールを実行できます。[Cisco Crosswork データゲートウェイ（Cisco Crosswork Data Gateway）導入パラメータとシナリオ（2 ページ）](#) を参照してください。

スクリプトで OVF ツールを実行する場合のサンプルスクリプトを次に示します。

```
#!/usr/bin/env bash

# robot.ova path

DG_OVA_PATH="<mention the orchestrator path>"

VM_NAME="dg-141"
DM="thin"
Deployment="cloud"

ActiveVnics="2"

Hostname="Hostname"
Vnic0IPv4Address="<Vnic0_ipv4_address>"
Vnic0IPv4Gateway="<Vnic0_ipv4_gateway>"
Vnic0IPv4Netmask="<Vnic0_ipv4_netmask>"
Vnic0IPv4Method="Static"
Vnic1IPv4Address="<Vnic1_ipv4_address>"
Vnic1IPv4Gateway="<Vnic1_ipv4_gateway>"
Vnic1IPv4Netmask="<Vnic1_ipv4_netmask>"
Vnic1IPv4Method="Static"

DNS="<DNS_ip_address>"
NTP="<NTP Server>"
Domain="cisco.com"

Description="Description for Cisco Crosswork Data Gatewayi : "dg-141""
Label="Label for Cisco Crosswork Data Gateway dg-141"

dg_adminPassword="<dg-admin_password>"
dg_operPassword="<dg-oper_password>"

EnrollmentURI="<enrollment_package_URI>"
EnrollmentPassphrase="<password>"

ProxyUsername="<username_for_proxy>"
```

```

ProxyPassphrase="<password_for_proxy>"

SyslogAddress="<syslog_server_address>"
SyslogPort="<syslog_server_port>"
SyslogProtocol="<syslog_server_protocol>"
SyslogTLS=False
SyslogPeerName="<syslog_server_peer_name>"
SyslogCertChain="<syslog_server_root_certificate>"
SyslogCertChainPwd="<password>"

# Please replace this information according to your vcenter setup
VCENTER_LOGIN="<vCenter login details>"
VCENTER_PATH="<vCenter path>"
DS="<DS details>"

ovftool --acceptAllEulas --X:injectOvfEnv --skipManifestCheck --overwrite --noSSLVerify
--powerOffTarget --powerOn \
--datastore="$DS" --diskMode="$DM" \
--name=$VM_NAME \
--net:"vNIC0=VM Network" \
--net:"vNIC1=DPortGroupVC-1" \
--deploymentOption=$Deployment \
--prop:"EnrollmentURI=$EnrollmentURI" \
--prop:"EnrollmentPassphrase=$EnrollmentPassphrase" \
--prop:"Hostname=$Hostname" \
--prop:"Description=$Description" \
--prop:"Label=$Label" \
--prop:"ActiveVnics=$ActiveVnics" \
--prop:"Vnic0IPv4Address=$Vnic0IPv4Address" \
--prop:"Vnic0IPv4Gateway=$Vnic0IPv4Gateway" \
--prop:"Vnic0IPv4Netmask=$Vnic0IPv4Netmask" \
--prop:"Vnic0IPv4Method=$Vnic0IPv4Method" \
--prop:"Vnic1IPv4Address=$Vnic1IPv4Address" \
--prop:"Vnic1IPv4Gateway=$Vnic1IPv4Gateway" \
--prop:"Vnic1IPv4Netmask=$Vnic1IPv4Netmask" \
--prop:"Vnic1IPv4Method=$Vnic1IPv4Method" \
--prop:"DNS=$DNS" \
--prop:"NTP=$NTP" \
--prop:"dg-adminPassword=$dg_adminPassword" \
--prop:"dg-operPassword=$dg_operPassword" \
--prop:"Domain=$Domain" $DG_OVA_PATH "vi://$VCENTER_LOGIN/$VCENTER_PATH"

```

**ステップ 1** コマンドプロンプトを開きます。

**ステップ 2** テンプレートファイルを開き、Cisco Crosswork Data Gateway 用に選択した設定と一致するように編集します。

**ステップ 3** OVF ツールをインストールした場所に移動します。

**ステップ 4** 次のいずれかの方法で OVF ツールを実行します。

a) コマンドの使用

次のコマンドを実行します。

このコマンドには、ソース OVF ファイルの場所と、コマンドの実行結果として作成される vmx ファイルの場所が含まれます。

```
ovftool <location_of_source_ovf_file> <location_of_vmx_file>
```

次の例を参考にしてください。

```
ovftool --acceptAllEulas --skipManifestCheck --X:injectOvfEnv -ds="datastore130-2"
--deploymentOption="cloud" --diskMode="thin" --overwrite --powerOffTarget --powerOn
--noSSLVerify --allowExtraConfig --extraConfig:firmware=efi
--extraConfig:uefi.secureBoot.enabled=true --name="cdg147.cisco.com"
--prop:"Hostname=cdg147.cisco.com" --prop:"Description=CDG Base VM for Automation"
--net:"vNIC0=VM Network" --prop:"Vnic0IPv4Method=Static"
--prop:"Vnic0IPv4Address=<vNIC 0 IPv4 address>" --prop:"Vnic0IPv4Netmask=<vNIC0 IPv4 netmask>"

--prop:"Vnic0IPv4Gateway=<vNIC 0 IPv4 gateway>" --net:"vNIC1=DPG991"
--prop:"Vnic1IPv4Method=Static" --prop:"Vnic1IPv4Address=<vNIC1 IPv4 address>"
--prop:"Vnic1IPv4Netmask=<vNIC1 IPv4 netmask>" --prop:"Vnic1IPv4Gateway=<vNIC1 IPv4 gateway>"
--net:"vNIC2=DPG999" --prop:"dg-adminPassword=<password>"
--prop:"dg-operPassword=<password>" --prop:"DNS=<DNS address>"
--prop:"NTP=<NTP>"
--prop:"Domain=cisco.com" <image download url> vi:///Administrator@vsphere.local:<password>'@<IP
address>/DC/host/<IP address>
```

## b) スクリプトの使用

コマンドと引数を含めて作成したスクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

```
root@cxcloudctrl:/opt# ./cdgovfdeployVM197
```

### 次のタスク

vCenter 経由で Crosswork Data Gateway VM にログインします。

1. vCenter で VM を右クリックし、[コンソールを開く (Open Console)] を選択します。
2. ユーザ名 (割り当てられたロールに応じて dg-admin または dg-oper) と、対応するパスワード (インストールプロセスで作成したパスワード) を入力し、Enter を押します。

SSH を介した Cisco Crosswork Data Gateway VM へのアクセス :

SSH プロセスは、多数のログイン失敗後にクライアント IP をブロックすることにより、ブルートフォース攻撃から保護されます。不正なユーザ名またはパスワード、接続の切断、あるいはアルゴリズムの不一致などの失敗は、IP に対してカウントされます。20 分の時間枠内で最大 4 回失敗すると、クライアント IP は少なくとも 7 分間ブロックされます。失敗が累積し続けると、ブロックされる時間が長くなります。各クライアント IP は個別に追跡されます。

1. Cisco Crosswork Data Gateway の管理 IP にネットワークアクセスできるワークステーションから、次のコマンドを実行します。

```
ssh <username>@<ManagementNetworkIP>
```

ここで、ManagementNetworkIP は、IPv4 または IPv6 アドレス形式の管理ネットワーク IP アドレスです。

次の例を参考にしてください。

管理者ユーザとしてログインする場合 : ssh dg-admin@<ManagementNetworkIP>

オペレータユーザとしてログインする場合 : ssh dg-oper@<ManagementNetworkIP>

2. 対応するパスワード (インストールプロセスで作成したパスワード) を入力し、[Enter] キーを押します。



Cisco Crosswork Data Gateway VM にアクセスできない場合は、ネットワーク設定に問題があります。コンソールからネットワーク設定を確認します。正しくない場合は、Cisco Crosswork Data Gateway VM を削除し、正しいネットワーク設定で再インストールすることをお勧めします。

## Cisco CSP に Crosswork Data Gateway をインストールする

Cisco CSP に Crosswork Data Gateway をインストールするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Cisco CSP にアップロードするための Crosswork Data Gateway のサービスイメージを準備します。

- a) Crosswork Data Gateway `qcow2` ビルドを CCO からローカルマシンまたは Cisco CSP がアクセスできるローカルネットワーク上の場所にダウンロードして展開します。

ビルドは、`qcow2` および `config.txt` ファイルの `tarball` です。

- b) `config.txt` ファイルを開き、インストールの要件に従ってパラメータを変更します。[Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) 導入パラメータとシナリオ \(2 ページ\)](#) を参照してください。

(注) 複数の Data Gateway VM をインストールする予定の場合は、Data Gateway VM ごとに一意の `config.txt` ファイルを作成します。

次のパラメータには事前定義された値があります。

- 展開
  - 「クラウド」を使用します。

次に、`config.txt` ファイルの例を示します。

```
ActiveVnics=
AuditdAddress=
AuditdPort=
Deployment=cloud
Description=
DGAppdataDisk=
DGCertChain=
DGCertChainPwd=
DGCertKey=
DNS=changeme
DNSSEC=False
DNSTLS=False
Domain=changeme
EnrollmentPassphrase=
EnrollmentURI=
Hostname=changeme
Label=
LLMNR=False
mDNS=False
NTP=changeme
NTPAuth=False
NTPKey=
NTPKeyFile=
```

## Cisco CSP に Crosswork Data Gateway をインストールする

```

NTPKeyFilePwd=
Profile=Standard
ProxyBypass=
ProxyCertChain=
ProxyCertChainPwd=
ProxyPassphrase=
ProxyURL=
ProxyUsername=
SyslogAddress=
SyslogCertChain=
SyslogCertChainPwd=
SyslogPeerName=
SyslogPort=514
SyslogProtocol=UDP
SyslogTLS=False
UseRemoteAuditd=False
UseRemoteSyslog=False
Vnic0IPv4Address=0.0.0.0
Vnic0IPv4Gateway=0.0.0.1
Vnic0IPv4Method=None
Vnic0IPv4Netmask=0.0.0.0
Vnic0IPv6Address=:0
Vnic0IPv6Gateway=:1
Vnic0IPv6Method=None
Vnic0IPv6Netmask=64
Vnic1IPv4Address=0.0.0.0
Vnic1IPv4Gateway=0.0.0.1
Vnic1IPv4Method=None
Vnic1IPv4Netmask=0.0.0.0
Vnic1IPv6Address=:0
Vnic1IPv6Gateway=:1
Vnic1IPv6Method=None
Vnic1IPv6Netmask=64
Vnic2IPv4Address=0.0.0.0
Vnic2IPv4Gateway=0.0.0.1
Vnic2IPv4Method=None
Vnic2IPv4Netmask=0.0.0.0
Vnic2IPv6Address=:0
Vnic2IPv6Gateway=:1
Vnic2IPv6Method=None
Vnic2IPv6Netmask=64
dg-adminPassword=changeme
dg-operPassword=changeme

```

## ステップ 2 Cisco CSP に Crosswork Data Gateway のサービスイメージをアップロードする

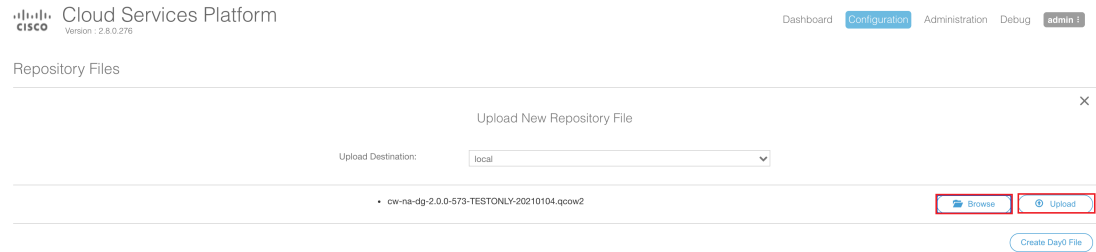
- a) Cisco CSP にログインします。
- b) [設定 (Configuration)] > [リポジトリ (Repository)] に移動します。
- c) [リポジトリファイル (Repository Files)] ページで、[Crosswork Data Gateway] ボタンをクリックします。



- d) [アップロード先 (Upload Destination)] を選択します。

- e) [参照 (Browse)] をクリックして qcow2 ファイルに移動し、[開く (Open)] をクリックし、[アップロード (Upload)] をクリックします。

この手順を繰り返して、config.txt ファイルをアップロードします。



ファイルがアップロードされると、ファイル名とその他の関連情報が [リポジトリファイル (Repository Files)] テーブルに表示されます。

### ステップ 3 Crosswork Data Gateway のサービスを作成する

- [設定 (Configuration)] > [サービス (Services)] に移動します。
- [サービス (Service)] ページで、[+] ボタンをクリックします。
- [サービスの作成 (Create Service)] オプションをオンにします。

[サービス プロファイル テンプレートの作成 (Create Service Profile Template)] ウィンドウが表示されます。

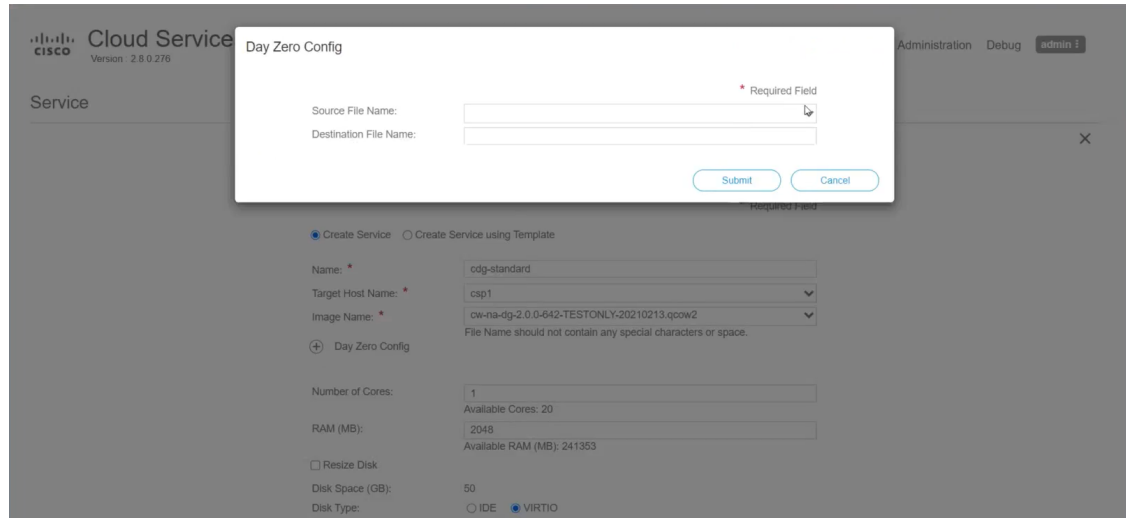
vnic	Admin Status	Vlan	Vlan Type	Network Name	Action
0	up		access	Eth0-2	⊗
1	up		access	Eth1-1	⊗
2	up		access	Eth1-2	⊗

- d) 次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
名前	VM の名前。
ターゲット ホスト名 (Target Host Name)	VM を展開するターゲットホストを選択します。

フィールド	説明
イメージ名 (Image Name)	qcow2 イメージを選択します。

- e) [デイゼロの設定 (Day Zero Config)] をクリックします。



[デイゼロの設定 (Day Zero Config)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

1. [ソースファイル名 (Source File Name)] ドロップダウンリストから、以前に変更してアップロードした config.txt ファイルを選択します。
2. [宛先ファイル名 (Destination File Name)] フィールドに「config.txt」と入力します。
3. [送信 (Submit)] をクリックします。

- f) 次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
コア数 (Number of Cores)	8
RAM (MB)	32768

- g) [vNIC] をクリックします。

[VNICの設定 (VNIC Configuration)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

(注) VNIC 名はデフォルトで設定されます。

1. [インターフェイスタイプ (Interface Type)] で [アクセス (Access)] を選択します。
2. [モデル (Model)] として [Virtio] を選択します。
3. [ネットワークタイプ (Network Type)] として [外部 (External)] を選択します。
4. 次の表を参照して、[ネットワーク名 (Network Name)] を選択します。

VNIC の場合	選択内容
vnic0	Eth0-1
vnic1	Eth1-1
vnic2	Eth1-2

5. [管理ステータス (Admin Status)] として [稼働中 (UP)] を選択します。
6. [送信 (Submit)] をクリックします。
7. ネットワークで複数の VNIC を使用する予定の場合は、VNIC1 と VNIC2 に対して手順 g を繰り返します。

3つの VNIC をすべて追加すると、VNIC テーブルは次のようになります。

⊕ VNIC \*

vnic	Admin Status	Vlan	Vlan Type	Network Name	Action
0	up		access	Eth0-1	⚙️
1	up		access	Eth1-1	⚙️
2	up		access	Eth1-2	⚙️

- h) [サービスの詳細設定 (Service Advanced Configuration)] を展開し、[ファームウェア (Firmware)] としてドロップダウンから [uefi] を選択します。

[セキュアブート (Secure Boot)] チェックボックスをオンにします。

- i) [ストレージ (Storage)] をクリックします。

[ストレージの設定 (Storage Configuration)] ダイアログボックスで、次のように設定します。

フィールド	説明
名前	ストレージの名前。これはデフォルトで指定されます。
デバイスタイプ (Device Type)	[ディスク (Disk)] を選択します。
ロケーション (Location)	[ローカル (local)] を選択します。
ディスクの種類 (Disk Type)	[VIRTIO] を選択します。
フォーマット (Format)	[QCOW2] を選択します。
イメージファイルをディスクとしてマウントしますか。 (Mount image file as disk?)	このチェックボックスはオフのままにします。
サイズ (GB) (Size (GB))	ディスクサイズとして 70GB と入力します。

ストレージの設定が完了したら、[送信 (Submit)] をクリックします。

j) [展開 (Deploy)] をクリックします。

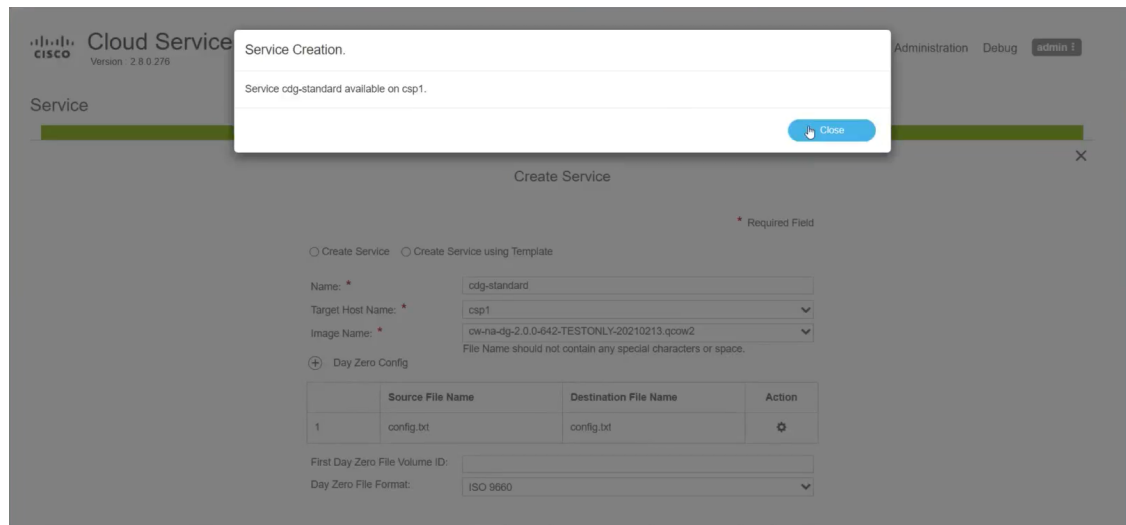
The screenshot shows a configuration form with the following fields and sections:

- Cache Mode: none
- Emulator Range: [input field]
- Max Emulator Range: 0-7
- VM Health Monitoring Configuration
  - Status: disabled
  - VNF Management IP: VNF Management IP x.x.x.x
  - VNF Group: default-vnf-group
  - VNC Port: VNC Port Range : 8721 - 8784
  - VNC Password: [input field]
  - Confirm VNC Password: [input field]
- Storage
 

Storage	Storage Type	Size (GB) / Disk Image Name	Action
1	disk (virtio)	5	[gear icon]
- Serial Port
- HA Service Configuration

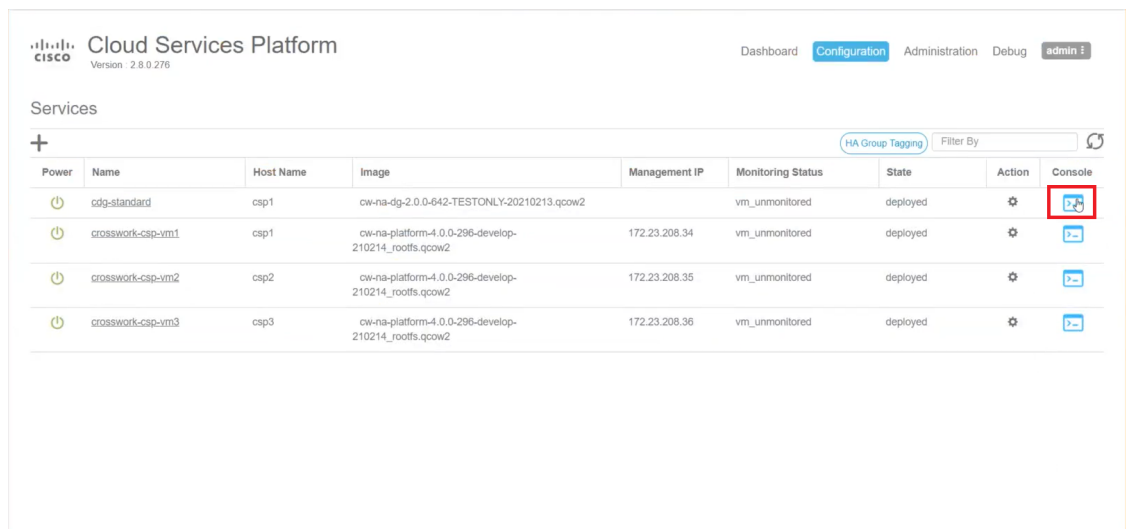
At the bottom, there are three buttons: **Deploy** (highlighted with a red box), Save as Template, and Cancel.

サービスが正常に展開されると、同様のメッセージが表示されます。[閉じる (Close)] をクリックします。



#### ステップ 4 Crosswork Data Gateway サービスの展開

- [設定 (Configuration)] > [サービス (Services)] に移動します。
- [サービス (Services)] テーブルで、上記で作成した Crosswork Data Gateway サービスの [コンソール (Console)] 列の下にあるコンソールアイコンをクリックします。

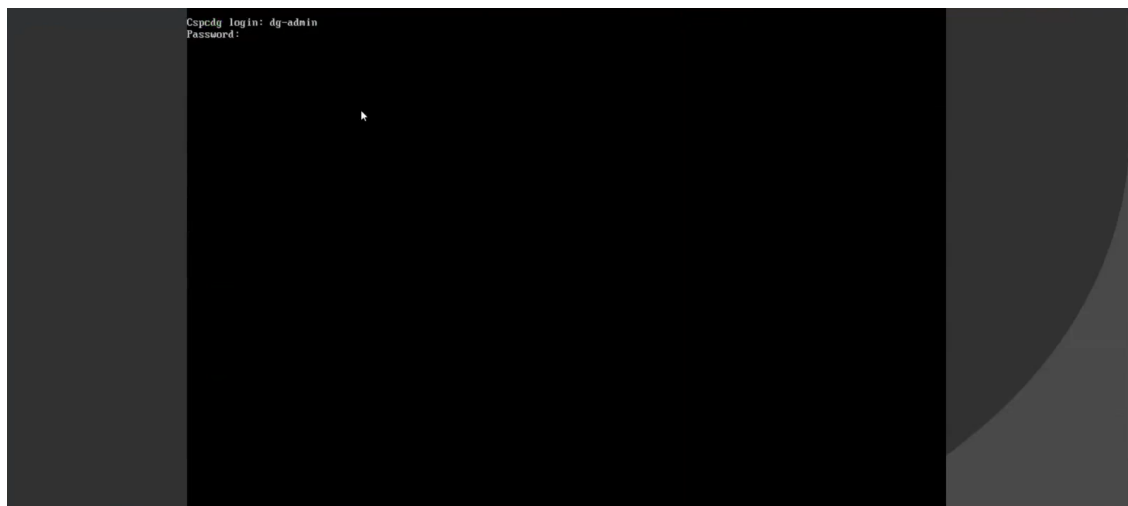


- [noVNC] ウィンドウが開きます。右上隅にある [接続 (Connect)] オプションをクリックします。





- d) Crosswork Data Gateway サービスが接続されたら、`dg-admin` ユーザまたは `dg-oper` ユーザ（割り当てられたロールに応じて）と、`config.txt` ファイルに入力した対応するパスワードでログインします。



Crosswork Data Gateway コンソールを使用できます。

## 登録パッケージの生成

それぞれの Crosswork Data Gateway は、不変の識別子によって識別する必要があります。そのためには、登録パッケージの生成が必要です。登録パッケージは、次のいずれかの方法で生成できます。

- インストールプロセス中に **自動登録パッケージ** パラメータを指定する（OVF 導入シナリオの「**自動登録パッケージ**」を参照）。

- インタラクティブメニューの[登録パッケージのエクスポート (Export Enrollment Package)] オプションを使用する ([登録パッケージのエクスポート \(34 ページ\)](#) を参照)。

登録パッケージは、インストール時にユーザが入力した OVF テンプレートから取得した情報で作成された JSON ドキュメントです。証明書、Crosswork Data Gateway の UUID、メタデータ (Crosswork Data Gateway の名前、作成時間、バージョン情報など) など、登録に必要な Crosswork Data Gateway に関するすべての情報が含まれます。

インストール時に登録パッケージをエクスポートしないことを選択した場合は、Crosswork Data Gateway を Crosswork Cloud に登録する前にエクスポートする必要があります。手順については、[登録パッケージのエクスポート \(34 ページ\)](#) を参照してください。



(注) 登録パッケージは、各 Crosswork Data Gateway で固有です。

登録パッケージ JSON のサンプルを次に示します。

```
{
  "name": "dg116.cisco.com",
  "description": "CDG Base VM for Automation",
  "profile": {
    "cpu": 8,
    "memory": 31,
    "nics": 3
  },
  "interfaces": [
    {
      "name": "eth0",
      "mac": "00:50:56:9e:09:7a",
      "ipv4Address": "<ip_address>/24"
    },
    {
      "name": "eth1",
      "mac": "00:50:56:9e:67:c3",
      "ipv4Address": "<ip_address>/16"
    },
    {
      "name": "eth2",
      "mac": "00:50:56:9e:83:83",
      "ipv4Address": "<ip_address>/16"
    }
  ],
  "certChain": [
    "<cert_chain>"
  ],
  "version": "1.1.0 (branch dg110dev - build number 152)",
  "duuid": "d58fe482-fdca-468b-a7ad-dfbfa916e58b"
}
```

## 登録パッケージのエクスポート

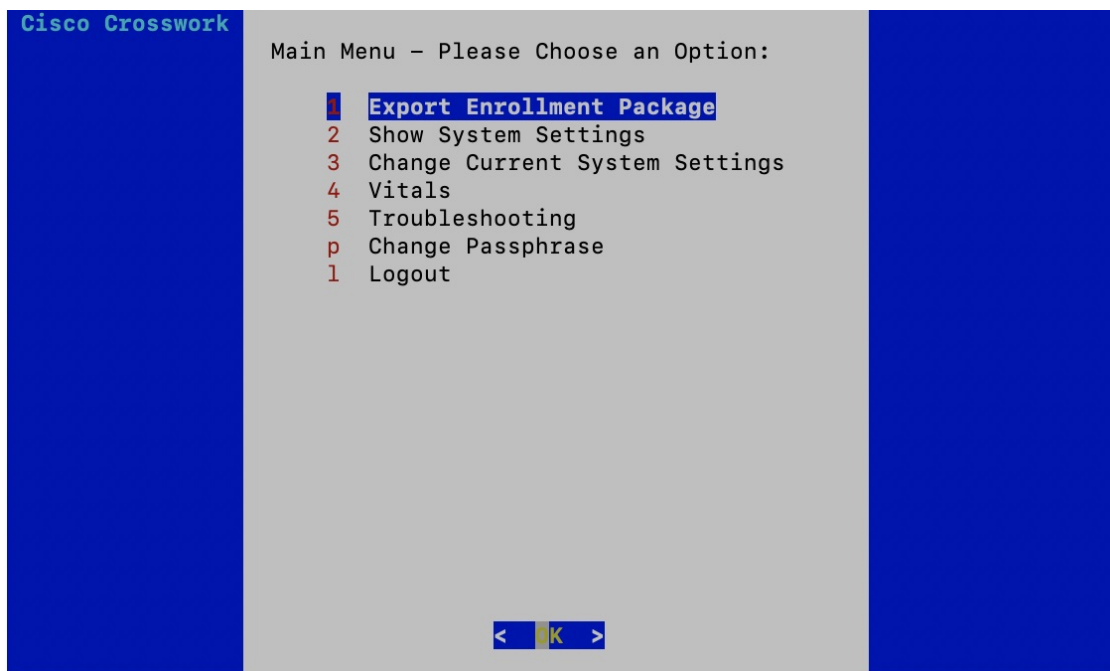
Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を Crosswork Cloud に登録するには、ローカルコンピュータに登録パッケージのコピーが必要です。



- (注) インストール時に**自動登録パッケージ転送設定**を指定していない場合のみ、コピーが必要になります。指定している場合、ファイルは VM の起動後に選択した SCP URI の宛先にコピーされます。

**ステップ 1** Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) にログインします。

**ステップ 2** メインメニューから [1 登録パッケージのエクスポート (1 Export Enrollment Package) ] を選択し、[OK] をクリックします。



**ステップ 3** 登録パッケージをエクスポートするための SCP URI を入力し、[OK] をクリックします。

- (注)
- ホストは SCP サーバを実行する必要があります。理想的には、Crosswork サーバへのアクセスに使用するローカルコンピュータに登録パッケージをエクスポートする必要があります。
  - デフォルトのポート 22 を使用していない場合は、SCP コマンドの一部としてポートを指定できます。たとえば、登録パッケージを管理者ユーザとしてエクスポートし、そのユーザのホームディレクトリにポート 4000 でファイルを配置するには、次のコマンドを実行します。

```
-P4000 admin@<ip_address>:/home/admin
```

**ステップ 4** SCP パスフレーズ (SCP ユーザパスワード) を入力し、[OK] をクリックします。

**ステップ 5** 登録パッケージをローカルコンピュータに直接コピーできなかった場合は、SCP サーバからローカルコンピュータに登録パッケージを手動でコピーします。

**ステップ 6** Crosswork Cloud への Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) の登録を続行します。Crosswork Cloud アプリケーションに Cisco Crosswork Data Gateway を登録する手順については、『Cisco Crosswork Cloud User Guide』の「Add Cisco Crosswork Data Gateway Information」の章を参照してください。

---

Cisco Crosswork Trust Insights または Cisco Crosswork Flow Insights に Cisco Crosswork データゲートウェイ (Cisco Crosswork Data Gateway) を登録する場合は、次の手順も実行します。これらの手順は任意であり、ネットワーク環境によって異なります。

- [制御プロキシの設定](#)
- [Crosswork Data Gateway の接続の確認](#)